

## 第一生命経済研レポートテーマ（2005年5月～6月）

<p>2005年5月号 (通巻98号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時評</li> <li>・今月の内外景気</li>   <li>・今月の金融マーケット</li> <li>・中小企業アイ</li> <li>・経済トレンド</li>   <li>・けいざい・かわら版</li> <li>・よくわかる介護保険</li>   <li>・産業トレンド</li> <li>・セクター分析</li> </ul>	<p>経済成長への道のり 戦後60年、新たなスタートの年に          日本経済 ～ 賃金デフレ終息の可能性～          米国経済 ～ 賃金面からのインフレ懸念は杞憂～          日米経済の現状と6ヶ月後の方向性          グローバルマーケットはインフレ警戒姿勢へシフト          中小企業の役割とは          B R I C s 拡大が日本経済に及ぼす影響          ～ 05年の日本の実質GDPに対するプラス効果は+0.50%～          第三のビール市場参入拡大の経済効果          介護保険4年間の検証と2005年改革(その6)          ～ 保険料徴収・給付対象年齢の拡大は見送りに・下～          米国市場における日本車メーカーの動向          産業別利益動向</p>
<p>2005年6月号 (通巻99号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時評</li> <li>・今月の内外景気</li>   <li>・今月の金融マーケット</li> <li>・中小企業アイ</li> <li>・経済トレンド</li> <li>・けいざい・かわら版</li>   <li>・よくわかる日本の人口</li>   <li>・産業トレンド</li> <li>・セクター分析</li> </ul>	<p>憲法改正論議の切り口 国民的気運を盛り上げるには          日本経済 ～ 増税と景気の関係～          米国経済 ～ スタグフレーション懸念の台頭～          日米経済の現状と6ヶ月後の方向性          露呈する市場の脆弱さと政策当局に求められる対応          外需頼みの脆弱性が露呈          原油価格再上昇のインパクト          今年の夏のボーナス見通し          ～ 夏季ボーナスは2年ぶりの増加に転じるが、支給額は未だ低水準～          ピークが迫る日本の人口          ～ よくわかる日本の人口 【総人口の推移と人口転換】～          ショッピングセンターの発展による小売業の競争激化          ～ 主戦場となる郊外立地～          産業別利益動向</p>

### 編集後記

今年ももう半分が過ぎた。年々時間の経つのが早くなると実感するのは筆者だけだろうか。仕事はもちろん、家庭生活でもいつもせわしく何かに追われている毎日だ。ついこの間年賀状を整理したと思ったら、間もなく夏休みがやって来る。

夏休みといえば、家の近くの広場で眠い目をこすりながらラジオ体操をやったことを思い出す。そもそもラジオ体操はいつからあるのだろうか。昭和3年(1928年)当時の逓信省(もとの郵政省、現在の総務省)簡易保険局が昭和天皇ご即位の大礼を記念して、旧ラジオ体操第一を「国民保健体操」という名称で制定し、NHKのラジオ体操放送を開始した。昭和5年に東京・神田の巡査が子供の早起き大会としてラジオ体操の会を開催したのがきっかけとなってその後全国に普及したとされる。昭和7年には青壮年向けの体操として旧ラジオ体操第二が、昭和14年には旧第三体操が相次いで制定された。その後戦争をはさんで、昭和21年に新ラジオ体操(第一～三)をつくったが、動作が難しく、ほとんど普及しなかったことから、昭和26年に現在の第一体操が、翌27年には現在の第二体操が制定されている。小学生の娘によれば50数年経った現在も、夏休みの朝6時30分から地区単位で行われているらしい。藤浦洸作詞、藤山一郎作曲の「ラジオ体操の歌」と、それに続くあの軽快なピアノのメロディを聞くと今でも心身がシャキッとす。教育行政は「ツメコミ」式教育から「ゆとり」教育へ、昨今はゆとり教育から「人間力」養成へと、時代時代で繰り返し見直されてきたが、他方、50余年全く変わらないラジオ体操という国民的財産はぜひとも後代の子供たちにも受け継がれてほしい。

(N.I)